

DCアンプの世界的権威

金田明彦と聴く本当のレコード音楽

(サブタイトル ~ 金田式DCアンプで聴く時空を超えた音楽会)

**プロローグ**

金田明彦先生をお迎えして3回目の「金田式DCアンプで聴く時空を超えた音楽会」となりましたが、6月24、25日にご参加下さった皆様、大変ご苦勞様でした。特に、第1回目同様に函館や網走からも駆けつけて頂き、全道に金田リンケージが広がる思いを実感しました。

着々と時空を超えたシナリオが出来上がって行くのが楽しみです。

思い起こすと、先生にお声掛けしたのは、平成6年2月1日ですが、その時のご返事は、「製作会は是非盛り込みたいことと、折角製作するなら、それを鳴らすこと。」このポリシーは今も勿論、変わってはいません。

私たち主催する側も先生も含めボランティアに徹していると思っていますから、参加される方も是非同様の気持ちでお願いしたいことと、私たち夢クラフトの会は黒衣ですから、役者は金田先生ということになります。くれぐれも主客転倒をなさいませんようお願いいたします。

ご案内

第4回金田式DCアンプで聴く時空を超えた音楽会を次により開催します。お繰り合せの上、多数参加されますようご案内します。

1. と き 平成7年8月5、6日(土、日) 10:00~16:00
2. ところ 新冠町商工会館 小ホール
3. 内容

ネットワーク固有の音を気にしている方や、今はネットワークだが、将来はマルチに転向したいと考えている方等、マルチアンプとスピーカーを中心としたシステム構築について考えてみます。題して、「マルチアンプシステム簡単製作と調整の勘所」とでも行きますか。

パワーアンプは、2台あれば、本当に簡単で小さな2枚の基板を製作して、付加すると3チャンネルパワーアンプになるところを製作実験します。ウーハー以外は数ワットあれば間に合うはずで、実験も出来るようにボリューム付きのチャンネルフィルターも先生が持参します。

大変なのは、スピーカーのレベル合わせでしょう。このバランスがうまく行かずマルチシステムを投げている方が多いと聞きます。

①金田明彦クリニック

DCアンプの製作に関連したことや、音楽についてなど色々なご相談に応じます。普段疑問に思っている些細なことでもよろしいですから、是非お気軽にお持込みください。なお、製作したアンプ等も持込み比較試聴・自慢話をお聞かせください。

②金田明彦実験室

MJに未発表のお楽しみコーナー(内容と開設についても未定)

③金田明彦講演(トーク)&試聴会

楽しいトークと終わりのない音楽会です。参加者は慣れ親しんだレコードをご持参ください。

⑤金田明彦メモリアルコーナー

初期の金田式DCアンプを振り返って、その時折のアンプに目の当たりに触れて、しかも音楽も聴けるというコーナーです。基本は変わらないと思いますが、どんな音がするのでしょうかとても楽しみです。プリは正真正銘の1号機、パワーはA級50Wとしての1号機、さて、1号機同志の組み合わせで奏でる音楽は・・・乞うご期待！

⑥特別コーナー

真空管プリのファンは多いと思いますが、初段のプレート電圧はその都度変動します。皆さんもここをどうしたら良いのか、どうかして欲しいと思っていることでしょうか。今のところお約束の出来ない未定？ですが、新真空管プリを持参されるかも知れません。

⑦夕食会

好例の「金田明彦を囲む夕食会」を予定しています。料理は質素ですが、内容は満腹です。8月5日の土曜日夕刻から・・・時間は約束できないので悪しからず。こちらは会費制で2千円です。

スピーカーシステムは、前回同様パイオニアS-922を用意する予定。（既にグラスウールは取り出して、配線もダイエイ電線に交換してありますが、今度はマルチに使えるようにネットワークを外へ追い出します。）

(①②は適宜進行していますから、随時ご参加ください。)

4. 参加料 無料です（昼食を必要とする方は、適宜ご負担下さい。）

5. 申込先 059-24

北海道新冠郡新冠町字本町

夢クラフトの会事務局 湯川 剛

勤務先 Tel 01464-7-2111（新冠町役場）

Fax 01464-7-2600

（準備の関係から、参加に当たってはご予約を必要とします。）

お礼

参加者から、差し入れがありましたので、ご紹介します。

函館市亀田中野町31-288 田中茂昭さん &

大野町本郷44 きっさパレット 古川秀明さんから、大野名産ワインとクッキー

静内町古川町 味のみき 古川一嘉さんから日本酒

それから、6月25日の音楽会にて、缶ビール1箱を包装して机の上に忘れた（遺棄？）方、ご連絡下さい。善意と控え目の気持ちに感動して、何かプレゼントさせていただきます。（ダイエイ電線1包みとか？）

激生レポート IN アンプ製作会（I）

6月24日、25日

今度で第3回目の接近遭遇だ、これを第3次接近遭遇と言う。無防備になって、ふと気がつく

と・・・
だんだんと危ない状況になってくる。そして、参加者の中にも自分のシャック（部屋）を丸ごと持込んだと思われる輩も出没する。工具は勿論のこと、パーツや作りかけの基板、パーツ取りのかわいそー

うな基板、オシロスコープ、暖房用にはならないと思われたが、この日は結構寒く大助かりのFE 8 6×8本 何か夜な夜な暖めていたとか？ 当然、12V6, 5AのGSシールバッテリーは底をついた。しかし、ガッツだ。翌日には、95, 6月号のプリアンプが完成していた。MJ発表のものとはパターンも異なるので、結構修正に手間がかかったと思う。なにせ持ち込んだ時にはMJ発表のもので出来かけていたと見た。苦小牧の三木さん

ご夫婦お二人で（あたりまえだ夫婦は2人だ・・・）、仲むつまじく・・・でもお父さんのほうが控え目かな。奥さん「お父さんのDCマイク見て頂いたら」で、ようやく車から持ってきた。それがまた、非常に丁寧な作りで、スタンド用のアタッチメントがマル手に使えるように色々な工夫があった。美瑛の松山省二さんご夫婦

出沒と言えば、イカソーめんて有名な函館から二人づれがやってきた。ものすごくいいコンビネーションの悪さではないか。誰が見てもきっとそう言うに違いない、しかし、ものすごく味のある二人組みだ。軍手が何とも言いようの無いユーモラスでまた効果的だ。見てない人は分からないだろうが、黒塗（BB）のタカチのケースは指紋と油がついてカツコイデハナイか これを嫌うがために片手に軍手片手に・・・なんて歌の文句だ。そして、奇妙に居なくなる。隣町まで散策か。さらに、「レコード館」準備室が休日に空いてないのは駄目だと怒られた。すみません。函館まで間違わずに帰れたか心配な飲兵衛のナビゲーター（古川さん） 田中茂昭さん、古川秀明さん

そこへくると

札幌の鈴木康信さん組は、微笑ましい。康信さんは鈴木高司君のおじさんにあたるそう。20歳過ぎの彼がCDソースをDCアンプで聴きたいという気持ちがうれしい。暖かくて何とも言えん。お二人のケース加工をこちらで済ませてあげると良かったかなと反省している。

こりゃあ「汚い！」配線の静内の大山真司君 アマチュア無線で鍛えた汚い半田？が売り物。彼は徳だ、すぐに金田先生に名前を覚えられる。こうなったら、私は覚悟を決めた。優等生になろう。と・・・ところが、背伸びはいつまでも続かんだ。ハハハ すぐに疲れた。そして、パワーアンプの2N3055の玉ミッターとベースを間違えた。（それでも壊れない金田式DCアンプ？）その上、DCバランスVRと電流調整用VRを間違えた。ここまで間違えると、オフセットDCの調整どころではない。生の電源がスピーカ出力端子に出してしまう。「おいパワーアンプのスピーカ出力端子から、誰かのバッテリー入力コネクタに繋げ」なんてことになった。結果的に劣等生になった。オベも半田づけも同じ？なんて失礼なことはいわないが、半田づけの方が真剣。渡辺博志ドクター。そして、このアンプをオベアンプ？と命名。しかし、最後の調整で、湯川剛クラフターは、前述のとおりスピーカ端子が電源端子に変身したのだった。

半田を盛り過ぎて、後処理が大変、パーツを付けるのを中途にして（本人は終わったと思っている。）パーツの付いてないところまで、半田を盛ったり、TRを基板に密着してしまった。そのTRと基板の隙間から、別のTRの足が入るのに！！。塞がった隙間にパーツを、どう入れようかと思索するはずが、全くしてない天性の楽道家の中川正己マネージャー。しかし、彼のアンプはいつも金田先生が片CH手伝う羽目に陥る。右のスピーカから金田音、左のスピーカからは中川音が出るだろう。？

以上、製作会の模様を少し遠慮しつつ、あからさまにお伝えしました。

激生レポート IN アンプ製作会(Ⅱ)

部屋をそのまま引っ越したとも思われるとご紹介した三木直明さんからレポートをいただきました。

若小牧の三木と申します。

先日6/24-25日新冠町にて、金田先生を招いての、今年最初の製作会／試聴会が行われまして、喜び勇んで参加した感想などを、不束ながらレポートしたいと思います。

(以下の文は、パソコン通信のNIFTYにて発表したものを、元にしていきます。)

まず、日程は1日目から2日目の昼までが製作会、2日目の午後から、試聴会になりました。(実は1日目に先生の持参したパワーアンプがテスト中に若干のトラブルがあり急遽修理したり、2日目では参加者のプリが試聴に間に合わないで先生が片chを手伝ったり、参加者のパワーの完成が2日目の午後(試聴会中)になるなど、じつに忙しい2日間でありました。)

今回私は、製作途中の真空管プリを持って行くつもりだったのですが、今回製作されるプリ・パワーが、未発表の最新回路ということを知っていたので、急遽ストック部品やオシロ、工具一式、現有のプリ／製作中のパワーなど詰めるだけ詰め込んで、参加しました。(完成しなくても資料がもらえる、なんて下心は無かった、・・・とはいえないかも(笑))

おかげで、先生との事前の打ち合わせで、一番早く完成できる最新プリに製作を変更したほうがよい、という事で方針を変えて、結局その日のうちに完成できたり、以外と思っても見なかった工具や治具が必要になって、参加者の皆さんや先生に提供できたりと結果的には、正解だったようですね。

1日目は、私を含め7人ほどが製作をしまして、そのほか7名くらいが見学や試聴を楽しみました。見学のみの方のために(&制作者のBGM?)レコードやDCマイク/DAT録音テープの試聴や、製作でない方の中にも、札幌の小澤和男さんが現有の真空管プリを持ってこられて試聴できたり、使いやすそうなDCマイク(美英の松山省二さん)や製作中の6C33C/DCパワー(函館の田中さん)を持ってこられて、(これがMJでも滅多にお目にかかれにくいくらいの素晴らしい出来!)先生を始めみんなで激賞するなど、なごやかな雰囲気では1日目は過ぎました。

そして、夜の宴会?では、先生を囲んでビールとオードブルでじつに楽しいひとときを過ごしたのでした。このときの金田先生の発言などはじつに面白いのですが・・・これは参加した方の楽しみということで、残念ですが省略させていただきます(笑)。

そういえば先生は「そろそろ若い人達のためにデジタルを研究する必要がある」と仰っておられましたが、これは少しは期待していいのかな?。

その後ビール片手に製作を再開?、私は夜10時すぎに最新プリを完成させて、宿屋に引き上げたのですが、その日の終了時間は12時を超えていたそうです。(皆さん大丈夫だったのかな?次の日はビールの残りの入ったコップが沢山あったけど・・・)

次の日は製作組を含めて25名くらいになったでしょうか。昼食どきをはさんで、講演／試聴開始。システムは先生と湯川さんのターンテーブル、アンプが今回の目玉のプリ、パワーと、比較用のFETプリ、そして9月号発表予定の商用電源パワー、スピーカーは、湯川さんのパイオニアのS922を金田流にグラスウールを全廃、抵抗をスケルトンに変更したものだそうです。

今回製作したプリ、パワーについてですが、パワーは回路構成は6月号のリアンプに完全対称段を付加(但し2段目の電流帰還は、以前ほど無くても大丈夫とのこと)。2段目の電流も、結構流しているようです。温度補償は終段と2段目の2カ所で行っていたようです。また、プリは試聴を繰り返して定数を練り直したそうです。

試聴は、FETプリとTrプリの音の差、電池(ニッカド)と商用電源の差、といったテーマのあと、

今回製作したアンプの試聴、そして自由にレコードをかけて皆で楽しむ、といったプログラムでした。この中で商用電源については、正直見直しました。バッテリーアンプと同じ電圧では差がついてしまったのですが、高圧電源のパワーはかなり聞ける音で、会場の参加者も同意見だったようです。

プログラムの間の休憩時には、あちこちで話の輪が出来て、談笑したり、情報交換したりと賑やかでした。（そういえば、AKGのマイクが手に入らなくなったとのことですが、後継機種が出ているようです。取付け径か何かが違うそうで、使った人の話によると、音はそれほど変わらないとのこと。また、ショップスについては、秋葉原のダイナミックオーディオの店長が相談にのってくれるそうです。以上NIFTYからの情報でした。）

後半は参加者が持ち寄ったレコードを、試聴していったのですが、他の方々がいいレコードを持ってきていらした中で、私一人がゲテモノ（笑）を持って行って先生を困惑させてしまいました。（古楽と邦楽と民族音楽が趣味の私には、試聴会に合ったレコードは少ないかも・・・）関係者の方々にお詫びいたします。

さて、今回の催しで、先生からいただいたアドバイスで、私が聞いたかぎりのものを列挙してみます。

やっぱりプリはフラットアンプを入れたほうがよい。ゲインが足りても音が薄くなる。（理由は判らないが・・・）

6月号のプリの場合、ヘッドフォンを使わない場合は、フラットアンプの完全対称段のエミッタに47オームを挿入したほうがよい。その場合温度補償は必要無い。ヘッドフォンを使う場合はインピーダンスが低い場合はダーリントンにしたほうが良いだろう。また、ミューティングはフラットアンプの入力からアースにかけてスイッチを入れる。真空管の場合、球のヒーターエージングを充分にして、差動部の球のペア取り、初段のノイズに気をつける。

また、パワーについてのコメントをまとめてみました。

完全対称のパワーは終段が増幅しているので、Trでも70mAは流したほうが良い。2段目も多めの電流で高い電圧をかけたい。コンプリメンタリのパワー段は、今後はやらないだろう。6C33Cで単相200Vが使えれば、両波整流が出来るので、ハムキャンセラーもいらなくなり良い。

そのほか、今後の展開についても、PNPパワーTrを使った新回路の話とか（インバーテッドダーリントンだそうです。これが完成すれば、ターンテーブル制御の新回路になるでしょうね）、安定した真空管プリの回路（定電流がどうか・・・）など、アイデアは尽きることなくわいていくようです。金田先生の今後の活躍に期待いたしましょう。

編集コメント

>また、プリは試聴を繰り返して定数を練り直したそうです。」との部分にはその影にどれだけの手間暇をかけて抵抗1本替えるにも試聴等も繰り返し、金田先生の研究の成果があってこそ、我々読者（製作者）がその恩恵にあずかることができる訳で、その並々ならぬ不断の努力と熱心な研究のおかげでこんなにも素晴らしい音楽を楽しませていただいています。ほんとうにご苦労様、ありがとうございますと感謝の気持ちを申し上げます。

>輸送中に生じるトラブルも多く、テストヒヤリング中にもアクシデントは、あるものと考えた方が良いでしょう。そんな折にも、金田先生は決して屈せず、そこにあるパーツでなんとかクリアしようと、それはそれは真剣に対応します。

エピローグ

6月25日(日)の午後の音楽会の開会は、金田先生が拍手とともに登場して、少しのコメントをして、ご自分でどんどんと進める。という形式にしました。いわゆる主催者の挨拶は一切ないんです。逆に必要がないと思われます。大切なことは先生がコメントしてくれますから、あまり流儀や慣例にとらわれると、音楽まで堅苦しくなりません。最近、お役所的なことがきらいで、というよりも私たちグループは、趣味の範囲を超えないで好き者が集い、楽しくネットワーキングを広げること意義を感じていますから、参加者は是非「無防備」でお願いします。当然こちらも無防備です。

プロローグにて先生もボランティアと表現していますが、これは、少し注釈が必要ですね。色々な器材(アンプなど)を持込んでも直に音を出せる訳ではありません。先生は、金曜日に新冠入りをされて、アンプの調整、スピーカーの配置、部屋空間とか床とのマッチング、アンプの音出しに夜中まで費やします。特に真空管の時は大変です。いつも私たちの方から、もうそろそろ夕食にしませんかと、夕食とは名ばかりの遅い時間にほっと一息をついて、夜中に先生はホテルへ戻ります。翌朝も9時には、会場へ参ります。製作会の指導を終始暖かく激励を交えて夕方まで続きます。夕食も変な遅い時間になってしまいます。薄いアルコールも幾分入りますが、入ってからも、夜中まで製作が続きます。次の日には、絶対鳴らすという信念で指導されています。ですから、目途がつくまで土曜日の夜は私たちも大変です。

さて、試聴会も午後にはあるという当日、午前中は当然ゴチャゴチャして製作会が続きます。昼をまわるとポツポツ試聴会にも人が集まり始めます。昼食も取ったかどうか分からないまま、スーツに着替えて登場します。いつでも、フォーマルの場にはスーツということで、観衆(読者、参加者)を大事にしています。いつもながら感心します。

お願い

「参加に当たっては、予約を必要とします。」と明記していますから、お手数でも必ずその様にお願いします。ご予約頂いた方で始めて参加される方とは、電話なりで何等かのコミュニケーションをしたはずですが、これは、相手がどの様な方か、どの様な雰囲気の中で音楽を楽しんでおられるのか、DCアンプについての製作経験はあるのかなどについて、こちらとしても知っておく必要があると考えるからです。是非励行されるようにお願いします。(勿論のことご同伴者があれば、その旨ご予約ください。)

感心したこと

先日の試聴会に参加する予定の方が、都合で欠席されましたが、きちんとその訳を申し述べるとともに「北海道にいて金田アンプを聴けるチャンスはおそらく、この会をおいて無いと考えると・・・」というくだりがありましたが、きっと良い音楽を聴かれておられる方と拝察いたしました。と同時に私たちも金田先生に悪い意味で慣れっこになってはいけなさと反省させられました。